土浦四中 学校通信

土浦市立土浦第四中学校
（小中一貫校）　NO. 9
令和4年2月10日
連絡先　029-821-0297

【学校教育目標】一人一人の能力･適性を伸ばし，心豊かにたくましく生きる生徒の育成

学校評価にご協力ありがとうございました

立春も過ぎ，陽の光が日に日に温かく感じられるようになってきました。思えば，おととしの今頃から新型コロナウイルス感染症の拡大が始まりました。あれから２年が過ぎましたが，まだまだ新型コロナウイルス感染症の脅威は拭えません。学校では，定着した新しい生活様式のもと，感染症の流行を防ぎながら学校生活を継続させることができております。これもひとえに保護者の皆様のご協力のおかげと改めて感謝いたします。

さて，本校の課題を明らかにして学校教育目標や日頃の教育活動の改善を図るため，保護者の皆様に「学校評価」を７月と１２月に実施させていただきました。結果については下の表のようになりました。この結果を真摯に受け止め，保護者の皆様の貴重なご意見を参考にさせていただきながら，今後の教育活動に生かしていきたいと考えております。職員一同，改善に向けて努力していきますので，引き続きご協力よろしくお願いいたします。

項目	全学年保護者：回答数（7月）482　（12月）319 （　）内：「そう思う・だいたいそう思う」生徒の割合 ※共通項目，12月結果のみ	そう思う・だいたいそう思う 7月→12月	あまりそう思わない・思わない 7月→12月
1	子どもは楽しく学校生活を送っている（84%）	88% → 86%	12% → 14%
2	学校は基本的な生活習慣と社会のルールの定着を図っている（93%）	95% → 93%	5% → 7%
3	生徒が主体になって学校行事をつくり，活躍する姿 が見られる（75%）	84% → 83%	16% → 17%
4	本校の教員は子どもの声を聞きながら厳しさと優しさをもって接 している（80%）	87% → 85%	13% → 15%
5	学校は，問題や心配なことがあった時に親身になって相談にのっ ている（75%）	83% → 80%	17% → 20%
6	学校は子どものよさを見つけ認めてくれる（79%）	84% → 83%	16% → 17%
7	学校は様々な体験活動を通して，思いやりの心を育てている	84% → 81%	16% → 19%
8	学校の施設，設備など，学習しやすい環境になっている	88% → 89%	13% → 11%
9	授業では一人一人を大切にした学習指導の工夫改善を行っている	76% → 69%	24% → 31%
10	授業中，ＩＣＴを活用するなど，学力向上の手立てを工夫している（85%）	79% → 80%	21% → 20%
11	家庭学習が習慣化されるなど，自ら学ぶ姿勢が身についている（59%）	57% → 58%	43% → 42%
12	子どもは，授業，部活動，行事などを通して体力向上を図っている（82%）	88% → 78%	12% → 22%
13	子どもは，朝食を毎日きちんと食べている（90%）	94% → 93%	6% → 7%
14	小学校と中学校の接続がスムーズにできている	78% → 77%	22% → 23%
15	緊急メールによって配信される学校からの情報は，安全・安心につながっている	98% → 95%	2% → 5%
16	学校通信やホームページなどを通して，学校の教育目標や活動内容が伝わっている	94% → 89%	6% → 11%
17	子どもは，新型コロナウイルス感染症の対策を理解して，自分と周りの健康や安全に気をつけて生活している（92%）	93% → 94%	7% → 6%
18	子どもは，自分の進路に関する情報を知っている（78%）	55% → 61%	47% → 39%
19	学校には，いじめをしない・させない・許さない雰囲気があると思う（72%）	75% → 77%	25% → 23%

※注：合計が必ずしも100%になっていない場合があります。

○　考察

ほとんどの項目で「そう思う」「だいたいそう思う」が８割以上の回答となっており，保護者の皆様には本校の教育活動にご理解をいただいていると考えます。コロナ禍の中，「授業参観」や「体育祭」「音楽祭」など，生徒の姿を直接お見せする機会が縮小されたことから，今年度はＹｏｕＴｕｂｅを活用した配信をさせていただきましたことにも評価をいただきました。次年度もコロナ対策を行いながらの教育活動になるとは思いますが，生徒の姿を十分お伝えできるよう方法を工夫していくことが大切だと考えました。また，記述による回答では，様々なご意見をいただきました。貴重なご意見として今後の学校運営で参考にさせていただきます。

７月に比べて１２月は回答数が減少しました。今後もＷＥＢアンケートを活用したいと考えております。回答数（率）の向上にご協力よろしくお願いいたします。

最後になりましたが，アンケートのご協力，誠にありがとうございました。

同時双方向型のオンライン学習（リモート学習）の実施

１月の末に７年生で学級閉鎖が行われた際に，学習用端末を活用した同時双方向型のオンライン学習（リモート学習）を実施しました。感染の再拡大が懸念されるようになり，四中でも，「もしも」の場合に備えてきたものです。

ご家庭におかれましても，「もしも」の場合に正常に使用できるように，お子様には学習用端末（タブレット）の管理についてご指導いただきますようお願いいたします

冬来たりなば，春遠からじ

すでに新聞紙面等でも報じられておりますように，学校では，長時間・近距離で対面形式となるグループワークや，音楽の合唱・合奏，調理実習，「密集する運動」や「近距離で組み合いや接触する運動」など，感染リスクの高いとされる活動や部活動が自粛となっています。そのような中ですが，９年生は県立高校の出願，下級生は９年生の卒業へ向けた準備や新入生を迎える準備など，来る春への準備が着々と進んでいます。まだまだ寒い日が続きますが，いい春が迎えられるように，しっかりと準備をしていきましょう。

校長室から

積小為大（小を積みて大と為す）

「積小為大（せきしょういだい）」とは、二宮金次郎がモットーとしていた言葉です。「小を積みて大と為す」の言葉には、「小さなものを積み重ねないと、大きなことは為すことはできない。毎日の積み重ねが大切」と言う意味が込められています。

では、二宮金次郎という人はどんな生き方をしたのでしょうか？

金治郎は江戸時代後期、裕福な農民の子どもとして生まれましたが、両親が早くに亡くなり、苦難のなかで育ったのだそうです。その生活の中で卓越した才能を発揮し、実力が認められて武士となり、やがて幕臣（将軍直属の家臣）として働くことになったのです。金治郎は、身分制度の厳しい時代に、異例の大出世を遂げました。

金治郎は少年時代に生計が苦しく、山で薪を集め、町へ行ってはその薪を売って生計を立てていました。その頃の金治郎は一風変わった行動をとっていました。それは、薪を背負いながら読書をしていたのです。この姿を見て住民たちは思いました。

「アホじゃないか。農民の子どもは農民にしかなれないのに、この子は一生懸命勉強している。何を考えているのやら」と。

やがて金治郎は親戚の家に預けられることになり、そこでも勉強をやめなかったそうです。

その親戚は金治郎にこう言いました。

「灯りに使う油がもったいないから勉強をするな」と。

そこで、金治郎は友達からアブラナの種を借り、それを植え、育ったアブラナは油と交換してもらい、その油を売って勉強したそうです。また、田植えの際に捨てられていた苗を見つけてはそれを拾い、みんなが使っていない田んぼに植え続けたそうです。この作業を繰り返していくうちに、一俵のお米を収穫することができたそうです。

金治郎の生き方は、「こつこつやり続けることが、やがて大きなものとなり、成果を生む」というものでした。一日で成し遂げられることは本当に小さなことです。しかし、毎日毎日の小さな積み重ねが、１週間、１ヶ月、１年と積みあげられいくなかで、始めたときには想像もできなかったほど大きな事が成し遂げられるものです。

夢や目標を語るだけではなく、「ああなりたい、こうなりたい」と思うだけではなく、夢や希望をもったその時から、小さなことでも自分にできることから始めることが大切です。

さあ、皆さんも始めてみましょう。